



## 奉納「浮月シャクジ能」開催報告

奉納当日は、浮月楼の庭園と明輝館を舞台に、祈りと芸が重なり合う一日となりました。はじめに、財団評議員であり久能山東照宮13代宮司の姫岡恭彦氏によるご祈祷が厳かに執り行われ、倒木した春楡の御神木への慰霊と、弓反り橋再生の安全、そして文化継承の歩みが祈念されました。続いて、財団代表理事であり遠州流茶道上席家元師範代の久保田慶一（宗専）氏による献茶が行われ、庭園と御神木への感謝の心が捧げられました。また、財団理事でもあり浮月楼代表取締役である久保田耕平より、財団設立の趣旨と本プロジェクトが目指す未来について挨拶が述べられました。奉納芸能としては、華道家であり浮月楼芸術顧問、財団理事でもある辻雄貴氏による献花差立が行われ、桜を用いた献花が庭・茶室・能舞台をつなぎました。その空間に呼応するかたちで、財団評議員 能楽師・大鼓方の大倉慶乃助氏をはじめとする囃子方の演奏、狂言方 野村万之丞氏による三番叟の舞が奉納され、土地への感謝と命の循環を主題とした新たな奉納「浮月シャクジ能」が結実しました。

また、文化財登録された明輝館では、八代目料理長・藤村将義による一夜限りの特別会席と、辻雄貴氏による室礼が設えられ、参加者は芸・食・空間が融和する浮月楼ならではの体験を堪能しました。本奉納は、浮月楼が主催し、財団の志を社会へと伝える場として、「御神木再生プロジェクト」の始まりを象徴する一日となりました。

